

平成 24 年度 事務事業事後評価調書（平成 23 年度事業）

整理番号 9-9

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	酪農ヘルパー制度強化推進事業					
評価者	担当課名		産業振興課	担当係名		農務係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	主査
		氏名	石井弘道		氏名	宇野敏志
事業の概要	緊急時における労働力の確保や従事者の休日の確保を図り、生活環境の改善を図るために、酪農ヘルパー制度の体制充実を図ることにより、多くの農家が利用でき、農業後継者の育成・確保に適した環境の整備が図られる。					全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度～ 24 年度)
	事業費	国・道支出金	千円			
		地方債	4,000 千円			
		その他	千円			
		一般財源	6,000 千円			
		事業費計	10,000 千円			
実施方法	■直営		民間委託	その他 ()		
第 5 期 総合計画(前期)		■登載事業	非登載事業	優先度	B	
事業の位置付け	政策目標	1	はつらつ・雄武～地域産業の振興～			
	基本施策	1	農業の振興			
	単位施策	2	担い手(人・組織)の強化			
	事務事業の種類	■自治事務	法定受託事務			
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額(一般財源)	2,000 千円	2,000 千円	千円	千円	千円
	合計	2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	酪農ヘルパー制度利用農家		望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	酪農ヘルパ一体制の充実を図るために人員の確保		ヘルパー数	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	酪農ヘルパー4人体制の維持		① ヘルパー数	目標年度 平成23年度 目標値 4 人 実績値 4 人 達成度 100.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	制度利用農家が希望するときに利用できる体制		②	目標年度 目標値 実績値 達成度 %
内 容(どのような手段で何を行ったか)				
人員の確保	ヘルパー4人体制を維持し、体制充実を図る。			

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	4人体制を維持することにより、農家負担の軽減が図られており、今後も必要な事業である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	ヘルパー1名を増員し、正規職員を4名体制としている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	農家のニーズに沿った利用が可能であり、効率的な効果が得られている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	酪農振興会が負担金を徴収して運営しており、その運営費の一部を補助することにより、酪農業全体の環境改善につながる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益者が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適當 等

B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等

C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等

D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		

4人体制の維持により、多くの農家の利用が可能であり、利用農家の環境改善が図られている。



今後の展開方向
(Action)

継続／現状維持		
農家の生活環境の向上・維持を継続するため、引き続き事業の実施が必要である。		

* 展開方向の区分

継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--